

城野遺跡の基本理念と遺跡公園の必要性

見つかった遺跡がどんなに素晴らしいものであっても、それを地域の歴史の中で正しく位置づけ、市民・県民に伝え、後世に残していかなければ、遺跡保存の理念は揺らいでしまいます。

いつの時代の人々でも、本当の歴史の姿を見失わないようなカタチで遺跡にいのちを吹き込む、これを遺跡保存の基本理念と考えています。

そして、城野遺跡のテーマは「弥生社会の鼓動」。見つかった遺跡、遺構の後ろに存在した弥生人の息づかいをつねに感じていたいからです。

20年前の調査で見つかった重留遺跡の広形銅矛が、昨年、国の重要文化財に指定されました。城野遺跡とは谷地をはさんですぐ南側にあり、銅矛が埋められた住居は今も現地保存されています。また、そのすぐ東側の丘陵部で確認された重住遺跡では、住居跡から200個ものガラス小玉が出土するなど、このエリアは日本屈指の弥生遺跡が存在した地域といっても過言ではありません。

現在地下に保存されている遺構があるという優位性も生かし、また城野、重留、重住の3つの遺跡が、かつて連携してこの地域の弥生社会を築き、豊かな文化を形づくってきたように、今私たちは、彼らに負けないような真摯な態度と知恵、技術、そして努力と志で、これらの遺跡たちに命を与え、ふるさとの市民に歴史的連帯感と郷土愛を育んでもらう場にする必要があるのではないでしょうか。

学校教育、社会教育、生涯教育の場として多くの学校や市民団体、あるいは県内外からの観光客を誘致するためにも遺跡の整備・保存・公開が有効なことは、佐賀県吉野ヶ里遺跡や福岡市鴻臚館跡、宮崎県西都原古墳群、鹿児島上野原遺跡などをみれば理解できるでしょう。

北九州市域には、さらに外縁部に豊かな自然と歴史、文化を育んできた弥生遺跡群（小倉南区長野地区、横代地区、高津尾地区、八幡東区槻田地区、八幡西区辻田地区、馬場山地区など）も多数存在しており、そうした遺跡も取り込んだ発掘成果を加味した弥生社会像を重層的に組み立てることも、埋蔵文化財を通しての地域振興につながると考えます。

城野駅南口の開通、駅北口の区画整理事業により、駅利用者、周辺住民の利便性の向上はもちろん、居住環境が一段と整備されたこの地域にとって、遺跡公園は決して邪魔な存在ではありません。

現代社会の一角に歴史的文化遺産が共存することで、景観や環境面での都市の存在感や重みは全く違うものになるのです。現代に生きる私たちが、後世に残し伝えていける贈り物、心の拠り所、やすらげる空間を提供する舞台装置のようなものと考えていいでしょう。そうした意味では、過去と現在、未来をつなぐまさに歴史回廊として、城野遺跡が大きな役割を果たすものと考えます。

私たちは、城野遺跡公園が地域の活性化に大いに役立ち、地域の宝として住民に愛される存在になることを心から願っています。

